

YAおすすめ ブックリズメ

中学生・高校生のための
くにたち図書館情報ペーパー



第33号 2019.12 発行 くにたち中央図書館



おきたい
名著

読んで

中高生の
うちに

一橋大学の古本リユースサークル

「チーム・えんのした」の皆さんが、

10代に読んでほしいおすすめの本を選んでくれました！選ばれた本は誰もが認める名作ばかり。冬休みの読書にうってつけです！

図書館のホームページで、おすすめ本のリストを見ることができます。

〈期間〉12月4日（水）～12月28日（土）

〈場所〉中央図書館1階 YAコーナー

YA すたっふ&くにたち図書館企画

スライドブックフェア



タイトルひみつ！なかみもひみつ！
どんな本かわからない本を借りちゃおう。
それがブラインドブック♪



凝りだしたら
とまらない！



中3男子チーム
選ぶ本にはこだわ
りがあります

YA すたっふと図書館職員がおすすめ本を選びました。
わたしたちがネタバレしないように書いた紹介文だけが、
本を選ぶヒントです。

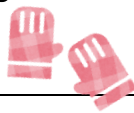
どんな本に出会えるかな。

年初めの福袋みたいに、ときどきしながら選んでね。

〈期間〉2020年1月4日（土）～1月26日（日）

〈場所〉中央図書館1階 今月の本棚

YA担当が選んだ☆

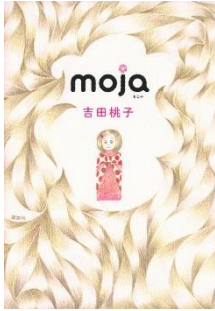


おすすめ本紹介



『moja』

(吉田桃子：著/講談社/2019.5)



中学2年生の理沙は、「もじゃ」をかくして生きている。毛がもじゃもじゃだからと、小学生のときについてしまったあだ名。中学生になって呼ばれなくなっても、「もじゃ」は理沙の心に住み着いてしまった。

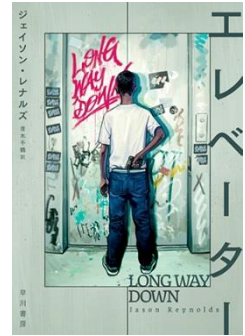
もじゃだから、プールに入れない
もじゃだから、好きな服を選べない
もじゃだから、恋することなんてない
もじゃだから、友だちに隠し事

——もう嫌。私じゃないひとになりたい。
「もじゃ」がないなら、もう誰でもいい。——

『エレベーター』

(ジェイソン・レナルズ：著 青木千鶴：訳/
早川書房/2019.8)

兄が銃で射殺されたー。
弟のウィルは銃を持ちエレベーターに乗り込む。復讐するために向かったはずが、エレベーターに充満する煙の中で様々な人と出会う。



銃をとりまく負の連鎖を詩のような短いフレーズで語りかけます。投げつけてくるような鋭い言葉、優しく漂うような言葉が各ページに散りばめられています。

重いテーマを言葉だけでなく、装丁と独特の表現方法で強いメッセージを発信しています。余韻が重く残る、アート作品のような本です。

『カガク力を強くする!』

(元村有希子：著/岩波書店/2019.7)

この本のタイトルを見て、「カガクかって言われても…文系だからよくわかんない」「理科は苦手…」と知っている人、多いと思います。でも、そんな人にこそ、この本を読んでほしい。



科学・技術が暮らしのすみずみにまで入り込み、それなしには文化的な生活が送れなくなってきた現代。著者は「カガク力」＝「疑い、調べ、考え、判断する力」を身につけようと読者に説きます。

物事を科学的に判断するカガク力は、難しい専門知識を必要としません。カガク力とは、おかしいと思ったら『おかしい!』とツッコむ力のことなのです。

カガク力は、文系のあなたにもきっと役立ちます。もちろん理系のあなたにも。中高生のうちに読んでおきたい必須の一冊です。

『そして、バトンは渡された』

(瀬尾まいこ：著/文藝春秋/2018.2)

「父親(母親)が2人目なんだ」と友だちに言われたら、あなたはどうか反応する？私はたぶん、自分の経験では理解も想像も難しいから、「親が変わるってどういう感じ？」と聞いちゃうと思います。



この本の主人公の高校生・森宮優子には、父親が3人、母親が2人。学校の先生から「かわいそうに」と心配されるけど、優子は気にしない。どの親にも大事にされていることを感じるから。でも、やっぱり悩むこともある。そんな優子を包んでいたのは、親たちの大きな大きな、とても大きな愛。ぜひ読んでほしいです。

「2019年本屋大賞」の大賞作品です！本屋大賞とは、全国の書店員さんが投票する、書店員が売りたい本、です。公開中の映画「蜜蜂と遠雷」(原作：恩田陸、幻冬舎)は2017年の大賞作品です☆

上記の本は、くにたち図書館に所蔵しています。貸出中の場合は、予約をしてね☆